

元気な膝を取り戻そう！ 変形性膝関節症の新たな治療が始まります



対象：膝が痛い
ヒアルロン酸注射が効果がない
手術は受けたくない

今まで手術以外では痛みをとることが
難しかった膝の新しい治療法です

再生医療（PRP・APS療法）とは

血液に含まれる血小板を高濃度に凝縮したものがPRP : platelet-rich plasma（多血小板血漿）です。

PRPには細胞の成長を促進する因子が多数含まれており、ヒト本来の治癒能力や組織修復能力・再生能力を最大限に引き出し、痛んだ関節軟骨・靭帯などの改善を促すと考えられています。

変形性膝関節症の治療にPRPを用いることで「患者様自身の持つ治癒能力」を補助し、痛みなどの症状改善を目指します。

※治療に用いるPRPは、自分自身の血液から作製するため、重篤な副作用が起きる可能性は極めて低いと考えられています。また、治療行為も採血と注射のみのため、体への負担も少なく済みます。

APS療法は、PRPからさらに処理を行い、「自己タンパク質溶液（APS）」を抽出し、関節に注射する方法で、より再生能力等の効果が高いといわれています。

注意

通常の保険診療と異なり、自由診療となります。
また、得られる効果には個人差があります。

治療の流れ

- ① 本治療の適応があるかを診断するために、PRP療法を行う前に1度、通常の受診をしていただきます。

※初診の方は紹介状が必要です。

(紹介状がない場合は選定療養費の支払いが必要となります。)



- ② 受診結果に基づいて改めてPRP療法の予約を取っていただきます。



- ③ PRP療法当日は、説明 → 採血 → PRPの注射 を1日で行い、約2時間程度かかります。

治療方法

- ・血液(15ml)を採取し、遠心分離処理をします。遠心分離により血液が成分ごとに分離します。
- ・血小板を多く含む血漿部分の層をPRPとして採取し、患部に注射します。

治療後の流れと注意点

- ・日常動作は注射当日から可能ですが、注射後、3日間程度は激しい運動をしないでください。
- ・注射時には患部の痛みが強い場合があります。また、注射後1週間程度は腫れや痛み、熱感が持続する場合があります。
- ・治療効果、効果の持続時間には個人差があります。詳細は診察時に担当医まで、お問合せください。

PRP療法を受けることができない方(除外基準)

- ・出血傾向のある方や抗凝固薬を使用されている方。
(例: 血液をサラサラにする薬など)
- ・貧血の症状がある方。
- ・重篤な感染症のある方や、感染を起こしやすい基礎疾患(がん・糖尿病・免疫不全症・膠原病・肝硬変など)をお持ちの方。
- ・その他、主治医が不相当と判断した方。

問い合わせ先

市立ひらかた病院 医事課

〒573-1013 枚方市禁野本町2-14-1

TEL : 072-847-2821(代表) FAX : 072-849-2174